2019 3/12
No.2086
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

桃の節句（3月3日）に合わせ、市民から寄せられたひな人形などを紹介する特別展が、郷土資料館「チャッキラコ・三崎昭和館」（三浦市三崎）で開かれ、昭和20年代や50年代の七段飾りや、同館スタッフによる手作りのつるしびなといった約70点を展示している。4月9日まで。

神奈川新聞社

政経かながわ

2019 3/12 No.2086

contents

視点・点描 3
中学校給食は今

講演録 4
経済展望 正念場のアベノミクス
～消費増税、トランプリスク、EU危機～
ニッセイ基礎研究所主席研究員　伊藤　さゆり

政　治 8
「安倍氏の次も安倍氏」の現実味
流れを決する次期衆院選

社　会 12
あなたのお墓をどうします？
全国で急増する“離檀”

くらし2019 14
知的障害もバリアフリーに

企業最前線 16
普及するか戸建て宅配ボックス
受け取りと配達、双方にメリット

アジアの風 18
対日印象好転の背景

NNAアジア経済リポート 19

事務局だより

◇2019年4月定例講演会
4月22日（月）午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ5階「リビエラの間」
講師は政治評論家の有馬晴海さん
演題は「安倍１強と改憲議論～統一地方選から参院選へ～」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ（www.kanagawa-seikon.jp）に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局☎045（226）2121。

【訂正】2月26日号の講演録の演題と目次は「人工知能（AI）とビジネス新時代」でした。

視点点描

中学校給食は今

もうすぐ新学期。春から子どもが中学生、という家庭もあるだろう。勉強に加えて部活もあり、子どもたちも新生活に胸をふくらませている時季だ。一方で、保護者の立場に立つと、気掛かりなのは毎日のお弁当作り。

文部科学省の調査によると、米飯やパンなどの主食とおかず、牛乳がそろった「完全給食」を実施した全国の国公私立中学校の割合は、２０１８年度は86・６％。16年度の前回調査より２・７ポイント増加した。文科省では、共働き世帯が多くなり、中学校でも充実した給食を出してほしいという保護者の要望が高まっている、と分析する。公立中の完全給食の実施率を都道府県別に見ると、神奈川は44・５％。福島と千葉は１００％と、地域差がある。

神奈川県内でも保護者からの「完全給食」へのニーズは高い。各自治体が「おいしい給食」を目指して試行錯誤を続けている。デリバリー方式の給食の残食率の高さや異物混入で給食を休止していた大磯町では、校舎内の調理場から配膳する「自校方式」で再開を目指す。希望者向け配達弁当「ハマ弁」を実施している横浜市は喫食率アップが課題となっている。

「ハマ弁」の試食会＝１月25日

娘の小学校はいわば「ハイブリッド方式」。週３回が給食、２回がお弁当だ。「子どもには親の手作り弁当を」という意見もあり、分からなくもない。しかし朝食、夕食は家庭で作っているわけで、昼食は栄養士が考えた栄養バランスの良い給食を食べてもらいたい。みんなで同じものを食べる楽しさもあると思うし、お弁当だと「本人の好きなもの」になりがち。何より作る身としては、給食だと本当に助かる。

自校方式給食を導入するには、調理施設の建設費や維持管理、栄養士や調理員の確保などさまざまな課題がある。しかし働く女性が増えるなか、中学校給食へのニーズが高まるのは自然で、ニーズを踏まえた各自治体の取り組みを期待したい。「おいしい給食」は、子どもたちの毎日の活力になる。

（神奈川新聞社編集局次長　秋山　理砂）